

発刊によせて

「労働災害事例研究」第42集の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会におかれましては、積極的に災害防止活動に取り組みいただき、心より敬意を表します。

さて、令和4年の当署管内の死傷者数は、新型コロナウイルスの罹患による労働災害を除いて、死亡者数は5人と前年比50.0%の減少となったものの、休業4日以上死傷者数は835人と前年比12.8%の大幅増加となり、令和以降、最多となりました。

四日市コンビナート内でも、4年連続で死亡災害が発生しており、これ以上死亡災害を発生させないために、労使一丸となった取り組みが求められています。

死傷者数について、事故の型別で見ると、これまで多かった「墜落・転落」や「挟まれ・巻き込まれ」によるものが、長期的には減少している一方、「転倒」や腰痛などの「動作の反動・無理な動作」によるものが増加傾向にあり、全体の約40%を占めるなど、いわゆる「行動災害」の防止が課題となっています。

本年度は、労働災害の減少目標を定めた「第14次労働災害防止計画」の初年度となり、当署においても、署独自の目標を定め、広く周知を図る予定です。

労働災害を防止するためには、労使双方での取り組みが重要であることは当然ですが、発注者が業務を発注する際に、安全で衛生的な作業の遂行を損なうおそれのある条件を付さないことや適切な作業依頼をすることが極めて重要です。

本年度の全国安全週間のスローガンは、

「高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場」

となりました。

皆様方におかれましては、このたび発刊されます第42集を有効活用され、労使双方の安全衛生意識を高めるとともに、同様の災害を発生させないよう法令や職場の基本ルールが徹底されているか、また適切に実行できる業務体制になっているか改めてチェックを図ることで、第14次労働災害防止計画の目標達成の足掛かりを作っていただきますようお願いいたします。

最後に、皆様の職場で無事故・無災害が達成されますことをお願い申し上げ、発刊によせての挨拶とさせていただきます。

令和5年6月

四日市労働基準監督署長 宮田仁